

文部科学省科学研究費補助金
特定領域研究

「統合脳」5領域

第5領域
2005年度～2009年度
著書リスト



貫名 信行

Mitsui, K., Doi, H. & Nukina, N. Proteomics of polyglutamine aggregates. *Methods Enzymol* 412, 63-76 (2006).

井原 康夫

井原康夫 (編著) : 脳はどこまでわかったか. 朝日新聞社 東京(2005).

Ihara, Y. Neurofibrillary tangles/paired helical filaments (1981-83). In: *Alzheimer's Disease. A Century of scientific and Clinical Research.* (ed Perry, G., Avila, J., Kinoshita, J. & Smith, M. A.) *J. Alz. Dis.* 9, 209-17 (2006).

Ihara, Y. Ubiquitin is a component of paired helical filaments in Alzheimer's disease. In: *Alzheimer: 100 Years and Beyond.* (ed Jucker, M., Beyreuther, K., Haass, C., Nitsch, R. & Christen, Y.) Springer-Verlag Berlin Heidelberg, 338-43 (2006).

井原康夫, 荒井啓行: アルツハイマー病にならない! 朝日選書 827, 朝日新聞社(2007).

岩坪 威

Wakabayashi, T., Iwatsubo, T. & De Strooper, B.: The biology of the presenilin complexes. "Alzheimer's Disease", edited by S.S. Sisodia and R.E. Tanzi. VTEX Lithuania, in press.

岩坪威: アルツハイマー病、パーキンソン病、Lewy小体型痴呆症の発症機序. 認知症治療薬開発の最前線 齋藤洋、阿部和穂 (編) シーエムシー出版、109-130(2006).

田平 武

田平武: 細胞老化と痴呆. 老年期痴呆の克服をめざして(柳澤信夫監修、財団法人長寿科学振興財団編). 医学書院 東京 10-15 (2005).

田平武, 原英夫: Alzheimer病のAbワクチン療法 神経. (柳澤信夫・篠原幸人・岩田誠・清水輝夫・寺本明編集). 中外医学社 96-102 (2005).

田平武: 自分でできる介護予防 第9章認知症(痴呆症)は生活習慣の改善で予防できます(編集部編). 厚生出版社 東京 156-171 (2005).

原英夫、田平武: アルツハイマー病のAbワクチン療法. 脳神経疾患病態の分子生物学. 南山堂 東京 165-174 (2005).

田平武: ワクチン療法の展望 アルツハイマー病. 第19回大学と科学シンポジウム講演収録集 治療の可能性を探る. クバプロ 東京 173-183 (2005).

堀田直恵, 田平武: アルツハイマー病のワクチン療法の試み. 痴呆症のすべて(平井俊策編) 永井書店 大阪 252-260 (2005).

田平武, 曾念生: 監修活化脳細胞特攻食譜. 尖端出版 台湾 (2005).

田平武: 老人性認知症. 泉孝英編集主幹. ガイドライン外来診療 2006 日経メディカル開発 310-314 (2006).

田平武: ワクチン療法. 監修 齋藤 洋、阿部和穂. 認知症治療薬開発の最前線 シーエムシー出版 263-269 (2006).

田平武: 老化に伴う脳神経疾患 監修 吉川敏一. アンチエイジング医学 診断と治療社 80-83 (2006).

田平武: 脳神経系の老化 監修 吉川敏一. アンチエイジング医学 診断と治療社 213-216 (2006).

Tabira, T., Yamamura, T. & Kira, J. Current Topics in Neuroimmunology. Medimond, Bologna, Italy (2007).

Tabira, T., Yamamura, T. & Kira, J. 8th International Congress Neuroimmunology Free Papers. Medimond, Bologna, Italy (2007).

田平武: アルツハイマー・ワクチン. 中央法規出版、東京、(2007).

田平武: アルツハイマー病の神経細胞死を誘導する因子の解析と抑止法の開発. 久野貞子、樋口輝彦編集 財団法人 精神・神経科学振興財団監修 こころの健康科学研究の現状と課題、東京、pp.226-237 (2007).

田平武: 脳いきいき特攻法. 主婦と生活社、東京、(2007).

田平武: 近い将来登場する有望なワクチン療法とは. 認知症アルツハイマー病治療・ケア最前線 主婦の友生活シリーズ 主婦の友社、東京、pp. 14 (2007).

田平武: 認知症を防ぐー免疫反応利用根治療へ期待. 北海道新聞編集 北海道百科、北海道、pp. 8-9 (2007).

田平武: アルツハイマー病に克つ 朝日新書 (2009).

水野 美邦

水野美邦: 8. 錐体街路系疾患. 臨床神経内科学、廣瀬源二郎・田代邦雄・葛原茂樹編, 南山堂、東京、324-348(2006).

水野美邦: 序文. 新しい診断と治療のABC39 パーキンソン病. 最新医学別冊 水野美邦・編, 最新医学社、東京、(2006).

水野美邦: 加速性 Parkinson 病の臨床像と分子遺伝学の整理解説: 総論. 神経内科 65, 103-107(2006).

水野美邦: パーキンソン病遺伝子. Clinical Neuroscience 別冊 中外医学社、東京、(2007).

水野美邦: パーキンソン病遺伝子 Overview. Clinical Neuroscience 25,70-71(2007).

水野美邦: ふるえの診察と検査: 問診と身体診察のポイント. Clinical Neurosci 2007 25,325-329(2007).

Mizuno, Y., Hattori, N. & Mochizuki, H. Genetic Aspects of Parkinson's Disease. In Handbook of Clinical Neurology, (eds) Koller W, Melamed E, Elsevier, Edinburgh, 245-264 (2007).

Mizuno, Y., Ikebe, S., Hattori, N. & Mochizuki, H. HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY, 83, PARKINSON'S DISEASE AND RELATED DISORDERS PART 1, Genetic aspects of Parkinson's disease,217-245,Collier W and Melamed E (eds), ELSEVIER (2007).

水野美邦: パーキンソン病の薬. NHK テレビテキスト. きょうの健康 5,134-141(2007).

水野美邦 編著 服部信孝他: EBMのコンセプトを取り入れたパーキンソン病ハンドブック. 改訂2版 中外医学社(2007).

柳澤 勝彦

Yanagisawa, K. : Cholesterol and A β cascade: pathological implication of apolipoprotein E in Alzheimer's disease. Recent Progress in Alzheimer's and Parkinson's Diseases. (ed Hanin, I., Casabelos, R. & Fisher, A.) Taylor & Francis, London & New York, 133-13

Yanagisawa, K. : Cholesterol and amyloid β fibrillogenesis. Alzheimer's Disease: Cellular and Molecular Aspects of Amyloid β . (ed Robin, H., & Falk, F.) Springer-Verlag, Berlin, Heidelberg, 179-202 (2005).

柳澤勝彦: アルツハイマー病の生物学「脳神経疾患病態の分子生物学」(澤明編) . 南山堂 東京 50-59(2005).

柳澤勝彦: 老年期痴呆の克服をめざして: 薬物治療の基本 - 現状と未来 -. 医学書院 東京 157-163(2005).

Yanagisawa, K. Ganglioside and Alzheimer's disease. In: Sphingolipid Biology. (edited by Hirabayashi Y, Igarashi Y and Merrill AH; published by Springer, Tokyo, Japan) 309-317(2006).

Yanagisawa, K. Pivotal roles of cholesterol and gangliosides in aggregation of amyloid beta-protein. In: Research Progress in Alzheimer's Disease (edited by Miao-Kun Sun: published by Nova Science Publishers, Inc.) in press

Yuki, N. & Yanagisawa, K. Glycoconjugates and neurological diseases. In: Comprehensive Glycoscience (edited by Johannis P. Kamerling; published by Elsevier, Oxford, UK), in press.

三浦 正幸

三浦正幸: 脳神経疾患とモデル動物: 遺伝子から個体レベルへ. 脳神経疾患病態の分子生物学: 精神疾患と神経疾患の新たな理解のために(澤明編) 南山堂、東京 175-184 (2005).

西川 徹

Nishikawa, T. Kurumaji, A., Ito, T., Umino, A. & Ishii, S. Neuroanatomical and molecular changes in stress responses. Kato, N., Kawata, M. and Pitman RK (eds.) PTSD brain mechanisms and clinical implications. Tokyo: Springer-Verlag,

西川徹: 6. 神経化学から. 風祭元, 山下格 編. 心の科学セレクション 統合失調症. 東京: 日本評論社 pp.73-90(2005).

西川徹: 1. 統合失調症. 第7章 神経・精神疾患の分子機構. 森寿, 真鍋俊也, 渡辺雅彦, 岡野栄之, 宮川剛編, 脳神経科学イラストレイテッド(改訂第2版). 東京 羊土社 pp.276-283(2006).

濱村貴史, 山本直樹, 黒田安計, 西川徹: 抗精神病薬の作用機序. 精神科薬物療法研究会編. 統合失調症の薬物治療アルゴリズム, 東京 医学書院 pp. 95-122(2006).

谷口豪, 西川徹: 3. グルタミン酸-D-セリンシステムと統合失調症. V. 「グルタミン酸」と「てんかん, 統合失調症」. 鶴紀子編. 脳とこころの科学. 東京 新興医学出版 pp. 114-123(2006).

濱村貴史, 山本直樹, 黒田安計, 西川徹: 抗精神病

薬の作用機序. 統合失調症の薬物治療アルゴリズム 精神科薬物療法研究会編 医学書院 東京、95-122 (2006).

谷口豪, 西川徹: 3. グルタミン酸-D-セリンシステムと統合失調症. V. 「グルタミン酸」と「てんかん, 統合失調症」. 脳とこころの科学 鶴紀子編 新興医学出版 東京、114-123 (2006).

車地暁生, 行実知昭, 熱田英範, 武田充弘, 藤田宗久, 山本真基子, 渋谷治男, 西川徹: 身体表現性障害を経過中に Bipolar II Disorder を呈し, 炭酸リチウム投与によって寛解に至った 1 症例. Bipolar Disorder 4 Bipolar Disorder 研究会編 アルタ出版 東京、25-30 (2006).

Nishikawa, T. A systematic approach to the brain d-serine system. Fujii N, Homma H, Bruecker H, Fisher GH, Konno R (eds.) A New Frontier in Amino Acid and Protein Research. Nova Science Publishers, New York, pp.151-167(2007).

西川徹: 2 ストレスに対する生体の応答, 2.7 発達. ストレスの科学と健康 二木鋭雄編著, 共立出版株式会社, 東京、88-93(2008).

貫名信行, 西川徹: 脳神経疾患研究の成果と課題. 実験医学増刊『脳神経疾患の分子病態と治療への展開』(貫名信行, 西川徹 編集) 羊土社、東京、25, 1914-1922 (2007).

山本直樹, 黒田安計, 西川徹: ドーパミン・興奮性アミノ酸仮説 - 3. 原因と病態モデル - I. 統合失調症の概念 - 統合失調症の治療-臨床と基礎 - 朝倉書店、東京、38-54 (2007).

西川徹: 分子神経科学の視点から. 統合失調症 生物学的背景. 精神医学対話 (ed. by 松下正明, 加藤敏, 神庭重信) 弘文堂 412-435 (2008).

竹内崇, 西川徹: 抑うつ(うつ病). 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 (ed. by 井上智子, 佐藤千史) 医学書院 1288-1291 (2008).

荒井 啓行

荒井啓行: 認知症の周辺症状に対する薬物療法と漢方. 老年医学 Update2007-2008, 日本老年医学会雑誌編集委員会, Medical View 社 (2007).

荒井啓行: 認知症早期診断のための臨床評価法 認知症の予防と治療. (財)長寿科学振興財団(2007).

井原康夫, 荒井啓行: アルツハイマー病にならない. 朝日新聞社 - 朝日選書 827 番 (2007).

有賀 寛芳

有賀寛芳: 生物系薬学 II. 生命をミクロに理解する. スタンダード薬学シリーズ4, (日本薬学会編) 東京 化学同人 東京 99-112 (2005).

有賀寛芳: バイオとナノの融合 II, 疾患遺伝子の探索とその作用機序. 北海道大学 COE 研究成果編集委員会編, 103-116 (2007).

有賀寛芳: クラーク 分子生物学, 第22章「組換え DNA 技術」監訳・田沼靖一, 丸善. 647-684 (2007).

有賀寛芳: Brown ゲノム, 第7章「真核生物ゲノム」監訳・村松正美, 小南凌, 201-228 (2007).

有賀寛芳, 有賀早苗: 「ここまでわかったパーキンソン

ン病研究」抗酸化ストレス因子としての Park7/DJ-1 とパーキンソン病 医歯薬出版 (2009).

石川 義弘

常松尚志、石川義弘: 心筋細胞内受容体と情報伝達 心臓血管麻酔の進歩. (監修; 武田純三、森田茂) 真興交易(株)医書出版部 61-64(2005).

石川義弘: カベオリンのインシュリンシグナル刺激. 糖尿病学 2005. (編集; 岡芳知, 谷澤幸生) 診断と治療社 44-51 (2005).

岩田 修永

岩田修永、西道隆臣: アルツハイマー病の発症機序へネプリライシン. 認知症治療薬開発の最前線シーエムシー出版, 東京、131-140 (2006).

Iwata, N., Higuchi, M. & Saido, T.C. Abeta-degrading enzyme, neprilysin, In: Research Progress in Alzheimer's Disease and Dementia, Vol. 1. (ed. Sun, M.K.) Nova Science Publishers, New York, pp. 111-145 (2007).

岩田修永、齊藤貴志、西道隆臣: ネプリライシン活性増強剤. アルツハイマー病-基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム、(編集、平井俊策)日本臨牀社、東京、pp. 502-506(2007).

浅井将、西道隆臣、丸山敬、岩田修永: β -セクレターゼ阻害剤(KMI-429). アルツハイマー病-基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム -, (編集、平井俊策) 日本臨牀社、東京、pp. 488-492(2007).

岩田修永: I. 2 章 脳と精神の老化、認知症の基礎 3-2 神経化学. 認知症テキストブック 中外医学社 39-41 (2008).

岩田修永: 実験薬理学シリーズ: 実践行動薬理学「アルツハイマー病の病態解明に向けたモデルマウスの解析」 (ed. by 日本薬理学会) 金芳堂 175-182 (2010).

菅 敏幸

菅敏幸、福山透: 「保護基」. 化学系薬学 II A 第4章 日本薬学会編 (2005).

菅敏幸、福山透: 薬学研究ビジョン「これからの天然物の合成と創薬」. Pharma VISION NEWS No.6.(2005).

菅敏幸、福山透: 寄稿論文「含窒素化合物の確実かつ簡便な合成法: Ns-strategy と高活性トリチル型レジン」. TCI メール No.128(2005).

木下 彩栄

木下彩栄: 神経変性疾患のサイエンス (共著). 神経組織学の新しい手法、南山堂 141-147(2007).

白澤 卓二

Shimizu, T. & Shirasawa, T. Detection of Amyloid b peptide with L-isoaspartate in Alzheimer's disease. In D-Amino Acid: A new frontier in amino acid and protein research -Practical Methods and Protocols-, Editors: R. Konno, H. Bru(uuml)ckner, A. D'Aniello, G. Fisher, N. Fujii, & H. Homma, Publisher: Nova Science Publishers, Hauppauge, New York, U.S.A. 368-374 (2006).

鈴木 利治

荒木陽一、鈴木利治: タンパク質分解異常と疾患—神経変性疾患を中心に— タンパク質科学イラストレイテッド第6章 (竹縄忠臣 編) 羊土社 東京 286-294 (2005).

高橋 良輔

Suzuki, Y. & Takahashi, R. A mitochondrial serine protease regulating cellular life and death, In Apoptosis and cancer therapy, eds. Debatin, K.-M. and Fulda, S. Wiley-VCH, Weinheim, Germany, 222-232 (2006).

高橋良輔、王華芹、小林芳人: プログラム細胞死と神経変性疾患. 細胞死・アポトーシス集中マスター (辻本賀英) 羊土社 100-110 (2006).

Takahashi, R. The molecular pathway to neurodegeneration in parkin-related parkinsonism. In Protein Degradation, eds. Mayer, R.J., Ciechanover, A.J. and Rechsteiner, M. Wiley-VCH, Weinheim, pp195-210. (2007).

高橋良輔 (編集): 神経変性疾患のサイエンス. 南山堂 (2007).

Inoue H., Kondo T., Lin L., Mi S., Isacson O. & Takahashi R.: Protein Misfolding and Axonal Protection in Neurodegenerative Disease protein Folding and Misfolding: Neurodegenerative Disease (ed. by Ovadi J) Springer in press.

玉岡 晃

Koide, R. & Tamaoka, A.: Body image deviation in chronic schizophrenia: new research. In Body Image: New Research, ed by Marlene V. Kinds, NovaScience Publishers, Inc., N.Y., 145-197(2006).

玉岡晃: 認知症に対する治療はどうすべきか. EBM 神経疾患の治療 2007-2008 (水澤英洋、棚橋紀夫、岡本幸市 編)、228-235(2007).

玉岡晃: アルツハイマー病、臨床病態学 (北村 聖編)、ヌーヴェルヒロカワ、112-118(2006).

玉岡晃: アポEと Alzheimer 病—アポEの分子病態と疾患発症機構. 別冊・医学のあゆみ Alzheimer 病—基礎・臨床研究の最新動向 (岩坪 威編集)、医歯薬出版株式会社、pp93-100(2007).

玉岡晃: 認知症に対する治療はどうすべきか. EBM 神経疾患の治療 2007-2008 (水澤英洋、棚橋紀夫、岡本幸市 編)、中外医学社、pp228-235(2007).

玉岡晃: Kennedy-Alter-Sung 症候群. 整形外科診療実践ガイド (守屋秀繁・他編)、文光堂、454-455(2006).

玉岡晃: 脳脊髄への転移. 癌緩和ケア—必携 ベッドサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル、東原正明編著、pp58-60(2008).

織田彰子、玉岡晃: 筋けいれん痛、癌緩和ケア—必携 ベッドサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル、東原正明編著、pp61-62(2008).

織田彰子、玉岡晃: 神経障害性疼痛、癌緩和ケア—必携 ベッドサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル、東原正明編著、pp63-64(2008).

玉岡晃: 検体検査 (血液検査、髄液検査)、新体系看護学全書 19 成人看護学⑥脳・神経、黒岩義之・宗

村美江子編集、メヂカルフレンド社、pp81-86(2008).
玉岡晃：一般内科疾患に伴う神経・筋障害. 新体系看護学全書 19 成人看護学⑥脳・神経、黒岩義之・宗村美江子編集、メヂカルフレンド社、pp220-226(2008).

玉岡晃：神経系の先天奇形・形成障害. 新体系看護学全書 19 成人看護学⑥脳・神経、黒岩義之・宗村美江子編集、メヂカルフレンド社、pp226-228(2008).

西村 正樹

Hasegawa, H. & Nishimura, M. γ -Secretase complex: core components and modulators. "Recent Advances in the Biology of Secretases, Key Proteases in Alzheimer Disease", ed. by Araki W. Research Signpost, in press.

橋本 康弘

山地俊之、三ツ木元章、橋本康弘：Natural killer (NK) 細胞の活性化レセプターと抑制性レセプター. 糖鎖科学の新展開(伊藤幸成、谷口直之監修) (株) エヌ・ティー・エス、東京 274-280 (2005).

北爪しのぶ、橋本康弘：アルツハイマー病 β セクレターゼによる糖転移酵素のプロセッシング. 未来を拓く糖鎖科学 (永井克孝監修) 金芳堂 京都 250-252(2005).

Kitazume S., Takashima S. & Hashimoto Y.: Experimental Glycoscience—Glycobiology (ed. by N. Taniguchi et al) シュプリンガー・ジャパン 192-194 (2008).

橋本康弘、北爪しのぶ：糖鎖を知る—その素顔と病気への挑戦— in press in press.

樋口 真人

Iwata, N., Higuchi, M. & Saido, T.C. β -degrading enzyme, neprilysin. In: Research Progress in Alzheimer's Disease and Dementia, Vol. 1 (ed. Sun MK). Nova Science Publishers, New York pp. 111-145 (2007).

樋口真人：アミロイドメーキング：MRI. 日本臨床 66 巻増刊号 アルツハイマー病—基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム— pp293-299 (2008).

久永 眞市

Hisanaga, S. & Sasaki, T. Neurofilament assembly. In "Cell Biology Protocol", Harris, R., Graham, J. & Rickwood, D. eds. pp337-41 (2006).

Ueda, K. & Hisanaga, S. Alpha-synuclein fibril formation induced by tubulin. In "Cell Biology Protocol", Harris, R., Graham, J. & Rickwood, D. eds, pp342-44 (2006).

Hisanaga, S. & Ishiguro, K. The kinase activity of Cdk5 and its regulation. In "Cdk5". Eds. Ip, N. & Tsai, L-H. Springer, NY. in press.

松崎 勝巳

松崎勝巳：ガングリオシドクラスターを介したアルツハイマー β - アミロイドタンパク質の凝集. 未来を拓く糖質科学 (永井克孝監修) . 金芳堂 京都 244-246 (2005).

松崎勝巳：ペプチドとリポソームの相互作用. リポソーム応用の新展開 ~人工細胞の開発に向けて~

(秋吉一成・辻井薫監修). エヌ・ティー・エス 東京 167-175 (2005).

道川 誠

道川誠：アポリポ蛋白 E. 老年期認知症ナビゲーター, メヂカルレビュー社、226-227(2006).

村山 繁雄

村山繁雄：アルツハイマー病診断. 真興交易、東京、(2006).

村山繁雄、齊藤祐子：PDD (認知症を伴うパーキンソン病) と DLB (レヴィー小体型認知症) の臨床と病理. Annual Review 神経病理 2007、中外医学社、東京、167-174(2007).

山口 芳樹

Yamaguchi, Y., Takahashi, N. & Kato, K. Molecular interactions: Antibody structures. Comprehensive Glycoscience, (J.P.Kamerling ed.), Elsevier(Oxford), vol.3, pp745-763 (2007).

岡澤 均

Okazawa, H. : Glutamine/asparagine-rich regions in proteins and polyglutamine diseases. "Protein Misfolding Aggregation and Conformational Diseases" edited by Vladimir N. Uversky Kluwer Academic/Plenum.6,451-463 (2006).

Okazawa, H. : Pathomechanisms and Therapeutic Approaches of Polyglutamine Diseases. Handbook of Neurochemistry edited by Abel Lajtha Kluwer Academic/Plenum (2006).

Okazawa, H. "POLYGLUTAMINE DISEASES" in Handbook of Neurochemistry and Molecular Neurobiology: Neural Protein Metabolism and Function, Edited by A Lajtha, Springer (2007). (ISBN 9780387303468)

郭 伸

郭伸：筋萎縮性側索硬化症.今日の治療指針 2005 年版 (総編集：山口徹、北原光夫). 医学書院 東京 652-3 (2005).

日出山拓人、郭伸：筋萎縮性側索硬化症.内科疾患診療マニュアル (富野康日己編). 中外医学社 東京 1012-7 (2005).

日出山拓人、郭伸：Huntington 病.内科疾患診療マニュアル (富野康日己編). 中外医学社 東京 1036-8 (2005).

相馬りか、郭伸、山本義春：人の中の確率共振と治療への応用.複雑現象工学-複雑系パラダイムの工学応用 (独立行政法人産業技術総合研究所). プレアデイス出版 大阪 321-32 (2005).

日出山拓人、郭伸：髄液細胞数・蛋白・糖. 検査値のみかた改訂3版. 編集代表中井利昭. 中外医学社. 790-6 (2006).

山下雄也、郭伸：グルタミン酸受容体と神経細胞死. 神経変性疾患のサイエンス、南山堂、in press.

Kwak, S., Hideyama, T. & Yamashita, T.: AMPA receptor-mediated neuronal death in motor neuron diseases. In: Amino Acid Receptor Research, Ed: Paley

BF & Warfield TE, Nova Science Publishers Inc. NY., in press.

日出山拓人、郭伸：筋萎縮性側索硬化症の AMPA 受容体仮説. Annual Review2008 神経 212-221(2008).

山下雄也、郭伸：神経細胞死とグルタミン酸受容体神経変性疾患のサイエンス. 高橋良輔編、南山堂、91-102(2007).

Kwak S., Hideyama T. & Yamashita T.: Amino Acid Receptor Research Nova Science Publishers Inc (2008).

日出山拓人、郭伸：Annual Review2008 神経 中外医学社 (2008).

郭伸：今日の診断指針第 6 版 医学書院 in press.

佐野 輝

佐野輝: chorea acanthocytosis ;内科学 第九版(杉本恒明、矢崎義雄総編集)朝倉書店、1794-1796、(2007).

Nakamura, M., Katoh, Y., Kurano, Y., Ichiba, M., Matsuda, M., Katoh, M., Ueno, S. & Sano, A. A Mouse Model of Chorea-Acanthocytosis, Neuroacanthocytosis Syndromes II (R. Walker eds.), Part III, 153-159, Springer, Berlin, Germany, (2008).

Sano, A.: Psychiatric Morbidity in Neuroacanthocytosis. Neuroacanthocytosis Syndromes II (R. Walker eds.), Part V, 157-163, Springer, Berlin, Germany, (2008).

塩見 美喜子

Nelson, D. & Siomi, M.C. :Fragile X Syndrome. Pediatric Nutrition in Chronic Diseases and Developmental Disorders -Prevention, Assessment, and Treatment- 2nd Edition (ed., Shirley Walberg Ekvall and Valli K. Ekvall) Chapter 56,Oxford University Press New York (2005).

Siomi, M.C. & Siomi, H. :Identification of components of RNAi pathways using the Tandem Affinity Purification (TAP) method. Methods in Molecular Biology vol. 309: RNA Silencing, pp1-9. (ed., Carmichael, Gordon) (2005). (ID#15990393)

Taura, T., Siomi, M.C. & Siomi, H. The molecular mechanisms of mRNA export. Nuclear Import and Export in Plants and Animals (ed., Tzfira, T and Citovsky, V.), 161-174. Landes Bioscience, New York (2005).

Ishizuka, A., Saito, K., Siomi, M.C. & Siomi, H.: In vitro precursor microRNA processing assays using Drosophila Schneider-2 cell lysate. Methods in Molecular Biology, vol. 342: MicroRNA Protocols 277-286 (2006). (ID#16957382)

清水 重臣

清水重臣：細胞死「癌のベーシックサイエンス」メディカルサイエンスインターナショナル. 221-234(2006).

清水重臣：細胞死の分子機構. からだと酸素の事典朝倉書店 in press.

清水重臣：神経変性疾患とミトコンドリア傷害. 神経変性疾患のサイエンス 南山堂 (2007).

永井 義隆

戸田達史、永井義隆：III. 研究の現状、1. 原因と発症の仕組み. パーキンソン病と関連疾患の療養の手引き(葛原茂樹編). 三重大学出版 三重 70-72

(2005).

永井義隆：遺伝子治療の展望. 脊髄小脳変性症のすべて(水澤英洋監修). 日本プランニングセンター 千葉 112-115 (2006).

永井義隆： χ . 神経変性疾患への臨床応用 18. 神経変性疾患治療戦略としての低分子による蛋白質凝集阻害. 神経変性疾患のサイエンス(高橋良輔編、南山堂) in press.

永井義隆：IV 神経変性疾患への臨床応用 18. 神経変性疾患治療戦略としての低分子による蛋白質凝集阻害. 神経変性疾患のサイエンス(高橋良輔編、南山堂)、181-197 (2007).

西澤 正豊

西澤正豊：神経疾患. 老年医学(松本和則・嶋田裕之編). 中外医学社 東京 66-77(2005).

西澤正豊：、五十嵐修一：ポリグルタミン病の分子生物学. 脳神経疾患 病態の分子生物学(澤明編). 南山堂 東京 28-38 (2005).

西澤正豊：脊髄小脳変性症の概論 研究と情報. 脊髄小脳変性症のすべて. 日本プランニングセンター 東京 19-22 (2006).

西澤正豊：神経難病と災害対策. 阿部康二編著「神経難病のすべて」、新興医学出版、東京、221-224 (2007).

西澤正豊：大脳皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺に有効な薬剤はあるか. 岡本幸市、棚橋紀夫、水澤英洋編「EBM 神経疾患の治療 2007-2008」、中外医学社、東京、220-222 (2007).

西澤正豊：スギヒラタケ脳症. 柳澤信夫、篠原幸人、岩田誠、清水輝夫、寺本明編「Annual Review 神経 2007」、中外医学社、東京、194-198 (2007).

西頭 英起

門脇寿枝、西頭英起：アポトーシス. 蛋白質 核酸 酵素 増刊号 キーワード：蛋白質の一生 in press.

長谷川 成人

長谷川成人：タウ:老年期認知症ナビゲーター(平井俊策監修) 東京：メディカルレビュー社、218-219 (2006).

長谷川成人：神経原線維変化:老年期認知症ナビゲーター(平井俊策監修) 東京：メディカルレビュー社、214-215(2006).

長谷川成人、新井哲明：タウ、プログラニューリン、TDP-43 と神経変性. 実験医学 25, 53-61 (2007).

長谷川成人、新井哲明：ALS でみられるユビキチン化封入体の構成蛋白. Brain Nerve 59, 1171-1177 (2007).

新井哲明、秋山治彦、長谷川成人：FTLD および ALS に出現するユビキチン陽性封入体の主要構成成分としての TDP-43 の同定. Dementia Japan 21, 89-103 (2007).

新井哲明、長谷川成人：ピック病の分子生物学. 老年精神医学雑誌 18, 605-615 (2007).

野中隆、増田雅美、長谷川成人：シヌクレイノパチーの基礎研究における最近の進歩. Dementia Japan

21(1), 8-14 (2007).

筧川貴行、長谷川成人: タウとアルツハイマー病. 医学のあゆみ 220, 374-378 (2007).

野中隆、増田雅美、長谷川成人: α -シヌクレイン. 日本臨床 66 [増刊号 1], 102-106 (2007).

長谷川成人、新井哲明: TDP-43 と神経変性疾患. BIO Clinica. 23, 61-64 (2007).

新井哲明、長谷川成人: TDP-43 (TAR DNA-binding protein of 43 kDa) とその意義. Clin. Neurosci. 26, 301-302 (2008).

畠山 鎮次

畠山鎮次: II. 神経変性の分子細胞生物学. 4. ユビキチン・プロテアソームシステム. (高橋良輔編: The Frontiers in Medical Sciences 「神経変性疾患のサイエンス」、南山堂、東京) in press.

畠山鎮次: myc 遺伝子. 村松正實編: 分子細胞生物学事典 第2版、東京化学同人、東京 (2008).

秦野 伸二

秦野伸二: 110. 筋萎縮性側索硬化症原因遺伝子. 予防医学事典 (松島綱治、酒井敏行、石川昌、稲寺秀邦編). 朝倉書店 東京 251-253 (2005).

松沢 厚

三輪崇志、松沢厚、一條秀憲: アポトーシス. 酸化ストレスナビゲーター (倉林正彦監修, 山岸昌一編). メディカルビュー社 東京 112-113 (2005).

水島 昇

Mizushima, N. Transgenic models of autophagy. In Autophagy in Immunity and Infection, edited by Vojo Deretic. Wiley-VCH. 55-67 (2006).

原太一、水島昇: 神経変性疾患におけるオートファジーの役割. 神経変性疾患のサイエンス、高橋良輔編 南山堂 pp49-57 (2007).

池田 和隆

曾良一郎、渡邊秀和、井手聡一郎、池田和隆: モルヒネの効き、副作用のかたは個人で異なるか? 患者の疑問に答えるオピオイドの要点 (下山直人編著) 真興交易 東京 53-62(2005).

糸川 昌成

糸川昌成: 糸川昌成 日本評論社 (2008).

大森 哲郎

住谷さつき、原田雅史、久保均、大森哲郎: 薬物応答性の異なる OCD の ProtonMRS を用いた検討. 強迫性障害の研究 6, 47-52(2005).

安藝浩史、友竹正人、兼田康宏、伊賀淳一、木内佐和子、田吉純子、田吉伸哉、森口和彦、元木郁代、住谷さつき、山内健、谷口隆英、石元康仁、上野修一、大森哲郎: 統合失調症患者の主観的及び客観的 QOL と家族による生活能力評価との関連の検討. 精神薬療 研究年報 第37集 169-176(2005).

尾崎 紀夫

尾崎紀夫: 伝統的診断分類と操作的診断分類について: 精神疾患の分類と病因の関係. 精神科研修ハンドブック. 羊土社 東京 70-72(2005).

尾崎紀夫: プライマリケア医と精神科医の連携. 第129回日本医学会シンポジウム「うつ病」. 東京 61-65(2005).

木村宏之、尾崎紀夫: リエゾン精神医学. 精神科研修ハンドブック. 羊土社 東京(2005).

西岡和郎、尾崎紀夫: うつ病. 精神科研修医ハンドブック. エルゼビア・ジャパン 東京(2005).

西岡和郎、尾崎紀夫: プライマリケアでみる精神疾患とその対応. 精神科研修ハンドブック. 羊土社 東京(2005).

野畑綾子、尾崎紀夫: サイコエデュケーション (心理教育). 心理療法ハンドブック(成田善弘ら). 創元社 東京(2005).

村瀬聡美、尾崎紀夫: 妊娠・出産期の精神科薬物療法. 精神疾患の薬物療法ガイド (稲田俊也編). 星和書店 東京 163-175 (2007).

三浦英樹、尾崎紀夫: 1. セロトニントランスポーターの機能異常と阻害効果. SSRI のすべて 先端医学社 40-44 (2007).

笠井 清登

細川大雅、笠井清登: 統合失調症の成因仮説を踏まえた新しいアプローチ. In: 精神科臨床ニューアプローチ 4 統合失調症と類縁疾患 メジカルビュー社 東京 2-15 (2005).

管心、山末英典、笠井清登: 器質性変化は臨床症状や社会的予後と関連するか? In: EBM 精神疾患の治療 2006-2007, 各論 I 統合失調症 中外医学社 東京 28-33 (2006).

山末英典、管心、笠井清登: どこまで脳器質性障害と言えるか? In: EBM 精神疾患の治療 2006-2007, 各論 I 統合失調症 中外医学社 東京 22-27 (2006).

平安良雄、笠井清登: 平安良雄、笠井清登 南山堂 (2008).

井上秀之、山末英典、笠井清登: 井上秀之、山末英典、笠井清登 中山書店 (2008).

滝沢龍、川久保友紀、桑原斉、笠井清登: 精神疾患と NIRS 中山書店 92-102 (2009).

西村幸香、滝沢龍、笠井清登: 精神疾患と NIRS 中山書店 79-89 (2009).

切原賢治、荒木剛、笠井清登: 精神疾患と認知機能 新興医学出版社 89-95 (2009).

滝沢龍、笠井清登、福田正人: 専門医のための精神科臨床リュミエール 中山書店 in press.

兼子 直

Okada, M., Zhu, G., Yoshida, S., Hirose, S. & Kaneko, S. Chapter 6: mechanisms of calcium-associated exocytosis of striatal dopamine and DOPA release, studied by in vivo microdialysis. In: Neurobiology of DOPA as a Neurotransmitter (ed Misu, Y. & Goshima, Y.) Taylor & Francis, New York. 89-99 (2005).

兼子直: てんかんの分子病態. 脳を知る・創る・守

る・育む(「脳の世紀」推進会議(伊藤正男、晝馬輝夫、河西春郎、山口陽子、兼子直、酒井邦嘉)編)。(株)クバプロ 東京 100-29(2005).

兼子直:不眠を訴える患者への薬の出し方. 睡眠障害診療のコツと落とし穴(上島国利編)。(株)中山書店 東京 38-9(2006).

兼子直: Heinz N. 改訂版 パルプロ酸の臨床薬理より良い使い方を求めて. 2006.9.26 改訂版第1刷発行、総頁183、株ライフ・サイエンス、東京(2006).

兼子直: うつ病. 市民のための老年病学—健やかな老後をあなたに— 51-53(2007).

和田一丸、兼子直: てんかん. コア・ローテーション精神科(改訂2版) 224-230(2007).

兼子直: チャネロパチー. KEY WORD 精神(第4版) 123(2007).

森園修一郎、菊池淳宏、近藤毅、兼子直: 急性期における身体管理. 佐藤光源、丹羽真一、井上新平編: 統合失調症の治療—臨床と基礎— 376-382(2007).

久保田 健夫

久保田健夫: 98.ゲノムインプリンティング. 予防医学辞典 E. 遺伝子解析, 診断, 治療(松島綱治編)、朝倉書店(東京) 211-213(2005).

曾良 一郎

曾良一郎: こころの病と脳内神経伝達物質. In: こころの病・脳の病: 9-27 NPO 法人脳の世紀推進会議編、東京、(2006).

曾良一郎: オピオイド受容体 Opioid receptor. In: KEY WORD 精神, 第4版, (樋口輝彦, 神庭重信, 染矢俊幸, 宮岡等編) 150-151、先端医学社、東京(2007).

朝長 啓造

Schwemmler, M., Carbone, K. M., Tomonaga, K., Garten, W. & Nowotny, N. Bornaviridae. In C. M. Fauquet et al. (ed.), Virus Taxonomy. Eighth report of the international committee on taxonomy of viruses. Academic Press, San Diego. 615-622. (2005).

朝長啓造: ボルナウイルス感染症. 獣医学臨床シリーズ No.21, 犬, 猫および愛玩小動物のウイルス病.

(望月雅美編)学窓社 231-237(2005).

朝長啓造: ボルナウイルス科. 獣医感染症カラーアトラス 第2版, 文永堂出版(2006).

橋本 亮太

橋本亮太、高橋清久: 精神疾患と性差. 性差医療、天野恵子編 112-123(2005).

武田雅俊、田中稔久、橋本亮太: 精神と未病. 未病医学入門臨床、金芳堂、98-102(2006).

橋本亮太、武田雅俊: リチウムの神経保護作用. キーワード精神第4版、230-231(2007).

橋本亮太、武田雅俊: DTNBP1. キーワード精神第4版、200-201(2007).

福島 順子

福島順子: 第15章 運動機能. II. 運動制御のしくみ. 二宮石雄他編集「スタンダード生理学」(2006).

福島順子、福島菊郎: 第. エッセンシャル神経科学(訳書) (ed. by 前田正信) 丸善株式会社(2008).

福島順子: 第16章 感覚系、運動系と統合系(訳書) . トータル人体の構造と機能第3版 丸善 in press.

松本 直通

Kurotaki, N. & Matsumoto, N. Sotos syndrome. Genomic disorders: The genomic basis of disease: Edited by Lupski JR and Stankiewicz PT. The Humana Press Inc, Totowa, NJ, USA, 237-246(2006).

宮川 剛

宮川剛、高雄啓三: 遺伝子と行動。「改訂第2版 脳神経科学イラストレイテッド」、森寿、真鍋俊也、渡辺雅彦、岡野栄之、宮川剛編. 羊土社、267-274(2006).

宮川剛: 「遺伝子、脳、こころ—マウスの研究からわかったこと」2005 世界脳週間の講演より. 子供の脳から大人の脳へ 107-139(2007).

高雄啓三、宮川剛: ストレスの科学と健康. 共立出版、第5章 第4節 実験動物(2008).